

天草陶磁器

あまくさとうじき



「天草陶磁器」

天草陶磁器の原料となるのが天草陶石ですが、天草陶石は江戸時代の発明家「日本のダビンチ」と言われた平賀源内が、天草陶石のことを「天下無双の品」と褒め称えています。このように、質・量ともに日本一との定評があり、焼物の原料として昔から利用されています。

また、当時の天草は天領であったため、御用窯としてではなく、村民が自分たちの生活のために焼いていたことから、各窯元独自の自由な作風が発展したといわれています。

このような、恵まれた環境のもと、天草では江戸時代の1673年に内田皿山焼、1762年には高浜焼の窯元が磁器を焼き始めました。1765年には水の平焼が陶器を焼き始め、現在は天草に30軒を超えるをの窯元があり、天草陶磁器の伝統が継承されています。

天草陶磁器とは、天草地方で焼かれる陶磁器類の総称で、平成15年に国の伝統的工芸品に指定された際に、新たに名付けられることになった呼び名です。